

平成31年度 全国学力・学習状況調査の分析と今後の課題

本年4月18日に3年生を対象に実施した、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、今後の取組について、本校としての方針を取りまとめたのでお知らせいたします。

なお、本調査は、お子様の学力・学習状況を把握することを目的として実施していますが、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、学習指導要領全体を網羅するものではないことから、結果については、お子様の身につけるべき学力の一部であることをご理解下さい。

また、調査結果をもとに、お子様と日々の過ごし方について話す機会をおつくり下さい。そして、強みを伸ばし弱みを克服していくために、生活習慣や読書習慣、家庭学習の習慣などについても見直す機会として下さい。

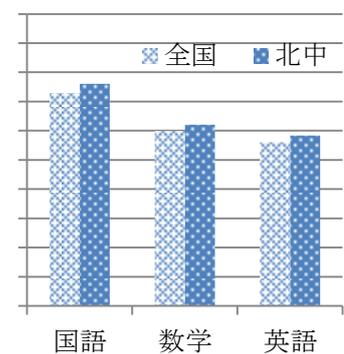
なお、英語の「話す」についての調査は、今回試験的に導入され、結果は参考資料としての扱いなので結果分析には含まれていません。

学校といたしましてはこの分析結果を踏まえ、今後の教育活動に生かしていきたいと思っております。

1 教科についての調査結果

各教科の正答率は、右のグラフにありますように全ての教科において全国平均値を上回っています。

平均正答率の全国比(%)



教科	結果からみられる成果（強み）と課題（弱み）	
国語	成果	<ul style="list-style-type: none"> 文章の型をモデルに自分の考えを記述する力が高まっている。 語の一部を省いた表現については語や文章の中での適切な活用の仕方を理解できている。 文章の展開に即して情報を整理し内容を伝える力が高まっている。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたい事柄に対して根拠を明確にして書くことに課題がある。 「封筒に住所と宛名を書く」ことについて、字の大きさや位置のバランスを十分理解できていない。 論述式の問いを苦手としている生徒が多いことが明らかになっている。 自分の考えを書く問いに関しては、他の問いと比べて無解答率が高い。
数学	成果	<ul style="list-style-type: none"> 確率の問題、三角形の合同条件、基本の式の変形など理解ができている。 1年生で学習した「平行移動した図形の移動した距離を求める問題」や、「冊数の最頻値を求める問題」も正答率が高い。 基礎基本が定着しており、応用問題に粘り強く取り組んでいる。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 「数の集合と四則計算の可能性」についての理解が不十分である。 記述式の問題に関して、無解答の生徒がどの設問においても全国平均を上回っている。「証明＝難しい」という認識を持つ生徒が多いと思われる。
英語	成果	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均と比較すると、特に「読むこと」「書くこと」について成果が表れている。 「読むこと」においては、日常的话题について簡単な文で書かれたものの内容を正確に読み取ることができている。 「書くこと」において、特に接続詞を用いること、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができている。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 「聞くこと」において、「日常的话题について情報を正確に聞き取ること」や「まとまりのある英語を聞いて話の概要を理解すること」に少し課題が見られる。 「書くこと」において、「文の中で適切に接続詞を用いること」に課題が見られる。

2 生徒質問紙における特徴的な結果 ※数字は、「している」「どちらかといえばしている」の割合

【豊かな人間性（自己肯定感、規範意識、社会への関心）】

○自己肯定感や規範意識について高い意識をもっていることがうかがえる。

●地域行事への参加や貢献については、これからの課題であると考えられる。

質問項目	北中	全国	全国比
自分にはよいところがあると思いますか	77.7	74.1	+3.6
先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか	85.1	81.5	+3.6
将来の夢や目標をもっていますか	70.2	70.5	-0.3
物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	97.5	93.9	+3.6
難しいことでも失敗を恐れず挑戦していますか	77.1	70.3	+6.8
学校の規則を守っていますか	96.9	96.2	+0.7
人が困っているときは進んで助けていますか	88.5	85.9	+2.6
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	95.1	95.1	±0
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.3	94.3	+2.0
今住んでいる地域の行事に参加していますか	50.3	50.6	-0.3
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか	41.0	39.4	+1.6

【家庭生活（生活習慣、家の人との会話）】

○多くの生徒は、早寝、早起き、朝ご飯について望ましい習慣が定着している。

質問項目	北中	全国	全国比
朝食を毎日食べていますか	97.5	93.1	+4.4
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか	81.3	78.0	+3.3
毎日同じくらいの時刻に起きていますか	95.7	92.8	+2.9
家の人と学校での出来事について話をしますか	76.4	76.4	±0

【学習習慣（家庭学習や自主学習）】

●家での学習習慣が十分ではなく、学習時間 30 分未満の生徒の割合は、全国に比べて上回っている。

●読書習慣のない生徒が全国に比べて多くなっている。

質問項目	北中	全国	全国比
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	50.9	52.6	-1.7
1日の学習時間（30分未満）	19.3	12.8	+7.5
学校の授業時間以外の読書時間（全くしない）	42.9	34.8	+8.1
読書は好きですか	67.0	68.0	-1.0

3 学校質問紙との関連などについての分析と今後の取組

- 教科指導の成果として、「各教科の勉強が好き」「授業内容がよくわかる」「勉強は大切だと思う」「授業で学習したことは社会に出た時に役に立つ」など、肯定的に回答する生徒の割合が全国平均値と比較して非常に高く、授業改善が進んでいることがうかがえる。
- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれる」と回答している生徒の割合が高く（全国比+8.0%）地道な取組、落ち着いた学習環境により、学力が着実に向上している。（生徒の3年前の調査の全国比を比較するとポイントが上がっている。）
- 今後も、「聴き合い、学び合う授業づくり」をテーマとし、校区小学校と連携しながら、共通の取組事項を整理し、小中学校9年間の連続性を意識した指導を進めていく。
- 国語科では、日本の伝統や文化、生活習慣に触れる機会をとり、自分の考えを記述する経験を積み重ね、苦手意識を払しょくできるような活動を取り入れた授業の改善を行っていく。
- 数学科では、基礎・基本の定着をより確実にするために、計算問題に多く取り組ませ、小テストを用意することで定着度を確認していく。記述式の問題にもチャレンジする機会を増やしていく。
- 英語科では、ペアやグループで既習表現を使ったやりとりを多く取り入れることで自分の意見を表現する力、聞く力を育てる。